

第41回新潟糖尿病談話会

日時 平成24年2月4日(土)
午後2時～午後6時
会場 朱鷺メッセ 3階 中会議室301

2 第30回新潟小児糖尿病サマーキャンプで行った『手洗い体験教室』

田中 亮・柴田 馨日・朝倉 充俊
菊池 雅仁・計良志津樹・竹野 孝慶
児玉 大樹・小山 武志・阿部 学
朝倉 俊成・小川 洋平*・菊池 透*
影山 美穂・齊藤 幹央・影向 範昭

新潟薬科大学薬学部
新潟大学医学部小児科*

I. 一般演題

1 インスリン注入器カートリッジ内への血液混入(逆血)の可能性
～小児1型糖尿病患者を対象にした
実態調査報告～

菊池 雅仁・朝倉 俊成・計良志津樹
竹野 孝慶・児玉 大樹・小山 武志
田中 亮・柴田 馨日・朝倉 充俊
阿部 学・小川 洋平*・菊池 透*
柄沢 仁美・影山 美穂・齊藤 幹央
影向 範昭

新潟薬科大学薬学部
新潟大学医学部小児科*

【目的】小児糖尿病患者での逆血発生状況をパイロットスタディ的に調査し、今後の逆血防止のための検討材料とする。

【方法および対象】対象は平成23年度の新潟小児糖尿病キャンプに参加したキャンパーで、本調査に同意が得られた者とした。方法はキャンプ参加時に自宅から廃棄するインスリン製剤を持参してもらい、潜血反応試験紙を用いてそのカートリッジ内の潜血の有無を検査した。

【結果】回収したインスリン製剤48本中5本(10.4%)に潜血反応を認められた。

【考察】小児を対象に行った小規模調査でも10.4%に逆血が見られたことと、これまでの現状を考慮しても約1割に逆血が見られる可能性が示唆された。しかし、注射の手技、注入器の種類、ピンチ力などの患者背景などによって逆血が起きやすいかという影響因子の分析は、さらなる大規模な調査を行う必要がある。そこで、今後このような調査をさらに広げていきたい。

【目的】2011年8月22日～25日の4日間で行われた第30回新潟小児糖尿病サマーキャンプで『手洗い体験教室』を行った。その際の効果について考察する。

【対象・方法】対象はサマーキャンプに参加した24名(男/女=10/14)で、5グループに分けて1つのグループを1名の薬学生が受け持ち、グループの引率や手洗いの実演などを行い、普段の手洗いと衛生的な手洗いを比較してもらった。また、キャンプ後にアンケートで感想と意識の持続について質問した。

【結果・考察】普段の手洗いでは特定の場所に洗い残しが目立ってしまうが、手洗いの指導を行うことでより手をきれいに洗うことが可能であった。洗えなかった箇所を明確にし、そこを重点的に洗えるよう手洗いの指導を行うことで手洗いに対する意識は向上したと思われる。しかし、アンケートでは手洗いに対する意識は変わったものの、継続してもらうまでには至らなかった。手洗いに対する意識が一時的なものとならないよう指導が必要であると思われる。